

地域で取り組む家庭教育支援事業の紹介

子育て支援活動の活発化で地域の教育力の向上を

荒川区教育委員会「地域子育て教室(地域の子育てサポーター養成講座)」

荒川区教育委員会では、乳幼児や小中学生の保護者向けの家庭教育学級や、ふれあい館、社会福祉協議会などと連携して行う地域子育て教室を実施しています。また、子供を核として、その保護者、近隣住民が出会う場、交流する場づくりを行う地域の団体や子育てサークルなどを支援する補助制度を設け、地域教育力の向上に取り組んでいます。さらに、地域で子育て支援の活動を行うサポーターを養成する講座として「地域子育て教室」を実施しています。

■「地域子育て教室(地域の子育てサポーター養成講座)」

地域社会全体で子育てを支援するために、子育て中の保護者をはじめ、子育て中の保護者を支援したいと考えている区民の方も含めて対象にして、子育て支援をしていく上で必要となる知識と技術の習得を図るため、地域子育て教室を荒川区社会福祉協議会と共催して開催しています。

この教室は、区全域を対象にして区のほぼ中心に位置する生涯学習センターを会場にする教室と、近年、子育て支援を必要としている世代が多く転入している南千住(汐入地区)を対象に、その地域の公共施設を会場とする二つの教室を実施しています。平成23年度は、次のような日程・内容で実施しています。

地区	対象者	回数	回	日時	研修内容・テーマ
区内全域対象 (会場:生涯学習センター)	・子育て支援の活動を予定している区民の方	2回	1	11月18日(金) 19:00-20:45	子供たちの遊び体験や支援の実践、 また見守る極意を学ぶ
			2	12月4日(日) 10:00-11:45	
南千住(汐入地区)対象 (会場:地域の公共施設)	・子育て中の保護者 ・関心のある区民の方	3回	1	11月2日(水) 10:00-11:45	子育て(支えあい)ネットワークのつくり方①
			2	11月9日(水) 10:00-11:45	子育て(支えあい)ネットワークのつくり方②
			3	11月30日(水) 10:00-11:45	一緒に子育てをする人とのコミュニケーション術



この地域子育て教室(地域の子育てサポーター養成講座)の修了者の一部の方は、「社会教育サポーター」※への登録を行うなど、それぞれの地域において子育て支援活動を始めています。社会教育サポーターやこうした教室の修了者が中心となり、支援者が広がり、子育て支援活動が活発となり、ひいては地域の教育力の向上につながっていくことを期待しています。

※社会教育サポーター
広く生涯学習に関わる分野の知識や技能、経験を持ち、ボランティアの精神で指導や援助に協力いただける方をサポーターとして登録し、団体等が指導者やアドバイザーを必要とするときに活動していただくことを目的として荒川区教育委員会が設けた制度。

地域が一体となって取り組む家庭教育支援～地域にたくさんの「担い手」を、「担い手」のネットワークを

瑞穂町の「子育て支援～はじめての一步」

東京都教育委員会「乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト」では、乳幼児の保護者が地域で孤立しないようなつながりを作るなど、地域が一体となって家庭教育を支援するための人材養成やその仕組みづくりを進めるため、ネットワークの核となる地域の「担い手」養成研修に取り組んでいます。平成22年度は全都対象の研修のほか、都内3地区で、地域の実情を踏まえ課題に対応した「担い手」養成研修を実施しました。その中から、瑞穂町で開催された養成研修について紹介します。

■ 瑞穂町の「担い手」養成研修実施のきっかけ

子育て支援事業に取り組んでいた一人の社会教育委員の方が全都対象の「担い手」養成研修を受講したことがきっかけでした。「子育て支援は、何か大きな事業をするだけではなく、地域の中で共に子供を守り育み、また、若い親を励ましていくようなネットワークができることが大事」と考えて、瑞穂町独自の「担い手」養成研修を開催するために、知り合いの主任児童委員の方を誘い、教育委員会社会教育課や子育て支援部署の職員を巻き込んで、4日間の養成講座の企画を作り上げました。



「担い手って、どんな活動をすればいいのかわからない」とグループで話し合い

■ 研修プログラムの柱

研修は、平日の夜2時間×3回と、最終回は日曜日の午前・午後で合計4回、延べ約12時間にわたりました。プログラムは次の四つの柱で進められました。

- (1) 瑞穂町の乳幼児の子育ての現状について知るための講義
「子供の発達の現状と課題を学ぶ」(町役場保健課の職員と地域の保育園長)
- (2) いろいろな組織・機関と協働するネットワークづくりを学ぶための活動事例
「地域のさまざまな機関や行政と協働する」(多摩地域で活動をしている子育て支援団体)
- (3) 担い手として子供の成長・発達を理解するための専門家による講義
「子供の成長・発達のメカニズム ～脳科学の観点から」(大学教授・小児科専門医)
- (4) 受講者同士が知り合い、課題を共有し、これからの瑞穂町での子育て支援について考え、「担い手」の活動をデザインするためのワークショップ

■ 研修の様子と成果 ～「町の中にたくさんのおせっかいおばさんを作ろう！」～

青少年委員やPTA経験者、地域の子育て支援サークルの方などに呼びかけ、30人強の方がこの講座を受講しました。

自分の住む町の子育ての現状を聞いて頷いたり驚いたり、子供の発達に関する医学・脳科学からは目から鱗が落ちるような知識を得たり。その中で、子育てを困難に感じる若い保護者の存在と多様な方向からの支援の必要性が分かり、支援者同士がゆるやかにつながる気持ちも高まりました。

特にワークショップでは、アイスブレイクのアクティビティを通して和気あいあいと楽しく学ぶ素地ができたところで、「乳幼児の親子はどこにいるだろう？最近どこで見かけましたか？」というファシリテーターの投げかけから、乳幼児の親子への



「乳幼児の親子は、どこにいる？」アンテナを高く伸ばしてみよう(ファシリテーターの「NPO法人せたがや子育てネット」代表理事・松田妙子さん)



ワークショップではいろいろなアクティビティも交えて和やかに(正面右はファシリテーターの「子育ていれかわりたちかわり」代表・山中ゆう子さん)

まなざしを見直し、どう接すればよいか、これまでの支援の枠を超えて何が出来るだろうか？と、グループでの真剣な話し合いが続きました。

この研修の後、まずは乳幼児の親子が立ち寄り知り合いを増やす場づくりとして「ほっとカフェ」の活動が始まりました。親子を一人ぼっちにしない地域づくりのための瑞穂町ではじめの一步、「ほっとカフェ」の活動は、これから始まります。